

岐阜県のパワースポット「金山巨石群」

富永 哲也 (下呂市観光課東京駐在)



秋分の日を特定する岩屋岩陰遺跡(巨石群)に差し込む太陽光

岐阜県には巨石群が数多く存在するのをご存知でしょうか？
 その中でも比較的世界に知られているのは、やはり高山市と下呂市にまたがる「位山」や恵那市の「笠置山」です。これらの巨石群には、ペトログラフ（線刻文字）が残されており、古代より何らかの文化活動が存

から江戸時代にかけての遺物が出土しました。その出土物や調査結果から、縄文時代のキャンプ地でないかと推定されていました。1998年から遺跡及びその周辺の巨石は、天体の観測に使われていたのではな

いかという調査研究が始まりました。遺跡の近隣にある「先刻石のある

在していた痕跡ではないかと考えられています。
 下呂市金山町にも「金山巨石群」という巨石群が存在します。
 「金山巨石群」は、下呂市金山町岩瀬にある巨石を組み合わせてできた遺構で、飛騨川上流の岩屋タムの直下に位置しています。
 ここには高さ10m級の巨石がいくつも存在し、静かな木立の中にながら不思議な雰囲気を感じることが出来ます。
 その巨石群のひとつである岩屋岩陰遺跡は、1973年岐阜県指定史跡に指定され、その後の発掘調査によって縄文時代早期

から江戸時代にかけての遺物が出土しました。その出土物や調査結果から、縄文時代のキャンプ地でないかと推定されていました。1998年から遺跡及びその周辺の巨石は、天体の観測に使われていたのではな

巨石群」「東の山巨石群」の3箇所の巨石群を総称して「金山巨石群」と呼んでいます。

この金山巨石群の考古天文学的な調査を続けている民間団体「金山巨石群調査資料室」によれば、これらの巨石群をめぐる太陽の動きから暦の把握をしており、春分・夏至・秋分・冬至及びその前後の数日を太陽光の射す位置等によって特定することができ、また閏年の計測も可能だそうです。

現代の太陽暦に負けずとも劣らない精度の高い暦を持つということは、ある程度大きな文化的・政治的な中心を成すものがかつて存在していたのかもしれない。

「金山巨石群」と同じような太陽観測の遺構は世界中にもいくつもあり、例えばイギリスのストーンヘンジやエジプトのピラミッド、インカのマチュピチュ等にも、夏至や冬至などを特定できる仕組みがあります。

「金山巨石群調査資料室」は、過去にイギリスのオックスフォード大学やスペインで行われた国際日時計学会において調査結果を発表するなど積極的な情報発信を行っています。その結果、高校世界史の副教材に取り上げられたり、ドイツやアメリカなどから研究者が現地を訪れる等国内のみならず海外からも大きな注目を集めています。



この太陽観測の仕組みは、天文学に通じておられる方にはとても興味深く、そうでない方も、巨石の前にすればきつと時を忘れ、縄文人の世界に想いを馳せられることでしょう。歴史に埋もれていたパワースポット「金山巨石群」にぜひ一度お立ち寄りください。

訃報

東京岐阜県人会理事

高橋昌宏さん(享年70才)が

7月23日に他界されました。

また、

高橋政行さん(享年70才)が

8月31日に他界されました。

生前は東京岐阜県人会に多大なご尽力をいただきました。

心から感謝いたします。

故人のこころからのご冥福をお

祈りいたします。